【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成29年6月8日(2017.6.8)

【公開番号】特開2015-65410(P2015-65410A)
【公開日】平成27年4月9日(2015.4.9)
【年通号数】公開・登録公報2015-023
【出願番号】特願2014-138370(P2014-138370)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｓ　3/036　(2006.01)
Ｈ０１Ｓ　3/134　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｓ　3/03　Ｊ
Ｈ０１Ｓ　3/134

【手続補正書】
【提出日】平成29年4月21日(2017.4.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
レーザを発生させるための放電室が内部に形成された筒部を有するガスレーザ発振器において、前記筒部には前記放電室に並列して延び前記放電室とともに前記筒部の端部まで延伸する空洞が形成され、前記端部において前記放電室のみを封止する第一封止部材と、前記端部において前記放電室と前記空洞とを共に封止する第二封止部材とを備え、前記空洞は前記第一封止部材と前記第二封止部材により囲まれる封止部材間の空間とつながった別の空間を形成しており、前記空洞内の当初の圧力は前記放電室内の圧力よりも低くなるように封止切りされていることを特徴とするガスレーザ発振器。
【請求項２】
請求項１に記載のガスレーザ発振器において、前記空洞内の全体の容積を前記放電室の容積の1/50以上にしたことを特徴とするガスレーザ発振器。
【請求項３】
請求項１あるいは２に記載のガスレーザ発振器において、前記空洞は複数設けられていることを特徴とするガスレーザ発振器。
【請求項４】
請求項３に記載のガスレーザ発振器において、前記放電室の短手方向断面において前記空洞の各々は前記放電室を囲むように配置されていることを特徴とするガスレーザ発振器。
【請求項５】
レーザを発生させるための放電室が内部に形成された筒部を有するガスレーザ発振器において、前記筒部には前記放電室に並列して延び前記放電室とともに前記筒部の端部まで延伸する空洞が形成され、前記端部において前記放電室のみを封止する第一封止部材と、前記端部において前記放電室と前記空洞とを共に封止する第二封止部材とを備え、前記空洞は前記第一封止部材と前記第二封止部材により囲まれる封止部材間の空間とつながった別の空間を形成しており、前記空洞内の当初の圧力は大気よりも高くなるように封止切りされているることを特徴とするガスレーザ発振器。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記課題を解決するため、請求項１に記載のガスレーザ発振器においては、レーザを発生させるための放電室が内部に形成された筒部を有するガスレーザ発振器において、前記筒部には前記放電室に並列して延び前記放電室とともに前記筒部の端部まで延伸する空洞が形成され、前記端部において前記放電室のみを封止する第一封止部材と、前記端部において前記放電室と前記空洞とを共に封止する第二封止部材とを備え、前記空洞は前記第一封止部材と前記第二封止部材により囲まれる封止部材間の空間とつながった別の空間を形成しており、前記空洞内の当初の圧力は前記放電室内の圧力よりも低くなるように封止切りされていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
また請求項２に記載のガスレーザ発振器においては、請求項１に記載のガスレーザ発振器において、前記空洞内の全体の容積を前記放電室の容積の1/50以上にしたことを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
また請求項３に記載のガスレーザ発振器においては、請求項１あるいは２に記載のガスレーザ発振器において、前記空洞は複数設けられていることを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
また請求項４に記載のガスレーザ発振器においては、請求項３に記載のガスレーザ発振器において、前記放電室の短手方向断面において前記空洞の各々は前記放電室を囲むように配置されていることを特徴とする。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
また請求項５に記載のガスレーザ発振器においては、レーザを発生させるための放電室が内部に形成された筒部を有するガスレーザ発振器において、前記筒部には前記放電室に並列して延び前記放電室とともに前記筒部の端部まで延伸する空洞が形成され、前記端部において前記放電室のみを封止する第一封止部材と、前記端部において前記放電室と前記空洞とを共に封止する第二封止部材とを備え、前記空洞は前記第一封止部材と前記第二封止部材により囲まれる封止部材間の空間とつながった別の空間を形成しており、前記空洞内

の当初の圧力は大気よりも高くなるように封止切りされていることを特徴とする。

【手続補正７】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図５】

